

東アジアにおけるハラル認証の課題

DILIXIATI NIJIATI 食品情報システム

【目的】

「ハラル」という概念は宗教に由来する。それはシャリア法（イスラムの教義に基づく法令）に従っており、許されるもとまたは行為という意味である。食品であれば、イスラム法に則った畜方法で処理され保存、輸送、流通、販売に至るまで管理されたものを意味している。だが観光客にとって、本物のハラル食品を探すことはなかなか難しいことである。観光客が一番困るのは飲食問題であり、初めて非イスラム圏に訪れた人たちには情報が不足し、言葉も通じないため、自分で食べ物をもって旅行したり、民泊で料理作るなどする。また現在韓国内では労働者が不足している。外国人労働者の受け入れや移民問題は、多くの先進国で重要な国政課題となっており、日本も例外ではない。

しかし残念な事に、最近ハラルを理解しない人たちが偽物のハラル認証を作ってムスリムむけに食品を提供し、国際的問題になりかねない状況が韓国で起きている事も報道されている。そこで韓国を中心にハラル食品認証への調査し、課題を明らかにする。

【方法】

1. 韓国を中心にハラル食品認証機関と団体を対象に調査を行い、その結果を分析、考察する
2. ハラル認証をうけた食品製造業者、レストランを対象に現場調査行う

【結論】

韓国で2018年平昌冬季オリンピックが開催されたが、オリンピック会場で礼拝室を作る計画が韓国の民族団体の大きな反対を受け中止になった。一般市民のイスラム教の悪いイメージがまだあることのほか、キリスト教徒の強い反対の結果である。現時点ではまだ韓国内ではハラルに対する理解が不足している。

2020年東京オリンピックが開催される。東南アジアも含めて、世界中からムスリムが来日する。その時のムスリムに対してのおもてなしにはハラル認証が必要となる。韓国と同じ偽ハラルが増えるのを防ぐため、そしてムスリムが安心して旅行できるようにするには認証制度だけでなく、人々のムスリムに対する理解を深める取り組みが必要である。

